



教室のご案内

バードウォッチング (自由参加)

1月26日、2月23日(日)

午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堰堤です。

※冬季は木々の葉っぱが落ちているので、野鳥を観察しやすいシーズンです。

1月下旬から2月にかけて陶史の森に「トラツグミ」がやってきます。体の大きさは、ヒヨドリと同じぐらいの約30cm。頭から翼、尾にかけての体表は黄褐色で黒いウロコ状の斑があります。この黄色い体色に黒い斑点が「トラ」に似ていることからこの名がつきました。日本では留鳥または雁鳥として生息し、普段は亜高山帯にいて、寒くなると雪の少ないところへ降りてきます。林などの地面に積もる落ち葉などをかき分けながら歩き、土中のミミズ、昆虫類

や木の実を食べます。冬の陶史の森の木々や丘陵地がちょうど過ごしやすいのでしょうか。薄暗い森の中や雨降りの日に、「ヒュー、ヒュー」「ヒョー、ヒョー」と、寂しげで不気味な声で鳴きます。また、夜にも気味悪い感じの声で鳴くため、「幽霊鳥」とか「地獄鳥」と呼ぶ地域もあります。古くには、伝説の怪物「鵜(ぬえ)」は、『トラツグミ』という説もあります。

全身「虎柄」
ートラツグミー

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)



多彩なデザインを持つ織部の器



実物の織部を観察する参加者

美濃陶磁歴史館の休館中、毎月1回テーマを変えて、学芸員による定期講座を開催しています。12月の回は「織部デザインに触れよう」と題し、実物資料に触りながら、間近でそのデザインを楽しむ機会としました。

素材として用意したのは、泉町久尻に所在する国史跡「元屋敷陶器窯跡」から出土した織部の陶片たち。これらは、およそ400年前の江戸時代初頭に生産された茶の湯の器です。器を構成する色、形、文様のすべてに工夫を凝らし、産地としての確かな技術の積み重ねを感じさせます。講座では、織部のデザインの特徴や時代背景を学び、デザインの多様さをゲーム感覚で捉える「美濃焼カルタ」に挑戦。そして、実物の織部を手に取り、じっくりと観察しました。普段は触ることのできない文化財を、市民の皆さんに、より近くで楽しんでもらえるよう、こうした機会を今後も作っていきます。

第9回 文化財に触って楽しむ